

24/3/18 名古屋市議会経済水道委員会（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

浅井正仁(自民・中川区)：じゃあええと、中間報告ね、本当は議論だったんだけど、先週の総務環境でとんでもないような、呆れるような暴露なのかな、がありまして、それで、その中で総務環境委員会の中で、これが。

その中で総務環境の中で資料の中でと観文さんに聞かれてますよね。

名古屋城天守閣木造復元市民向け説明会等における、観光文化交流局の対応についてというので、観光文化交流局としては、そういったことは働きかけはしてないというような答えが出てんだけど、そうすると、これは、田中秘書が勝手にやった話になるんだけど、勝手に動かれて、局長さんは、これだけの混乱を招いたことに対してまずは率直な感想なのかな、言っていたさき

局長：ちょうど先週の金曜のこの委員会の最中に、その関係でこういった事案が発覚しまして、委員会が中断になってわけてございます。私も席に戻った後にネットで委員会視聴したりとかできなかつた部分につきましては、速記録で確認したりしておりました。

本当にあの衝撃を受けたところでございます。

また特別秘書の過去の行動につきましては木造天守を応援したいというそういった思いが、仮にあったのかもしれませんが、やはりその公正その公平な運営を妨げるものでありまして市民の信頼のそこでは、そういったその行動であったことを考えますと、局としましては誠に遺憾であったと言わざるを得ない、というふうに考えているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：遺憾というね、お話なんだけど、うちら議会もみんな多分そう思っとならと思うんだよね。

田中特別秘書は、そういったものを、減税の議員に対して働きかけをしていた。

ひょっとしたら、市長さんも働きかけているかもしれない。

そういうことだっているいろいろな考えられる中において、ねじゃ副市長から、観光文化交流局には、そういった働きかけは、なかったかもしれない。

しかし、市長から反対派ばかりではいけないので、賛成派も集めるろという指示があったのかもしれないね。

あったならば、その内容だとかそういったものをちょっと、答えてもらえるかな。

名古屋城の活用担当江場主幹：市長からの働きかけについてご質問を頂きました。

過去の担当職員に対し確認をいたしましたところ、市民説明会に関しまして、市長からそのような発言があったことは、覚えがあるというふうに伺うただこれに対しましてですね、行政としての公平性に欠けるためそのような対応はできないというふうに申し上げたところでございます。以上でございます。

浅井正仁(自民・中川区)：ちょっとちょっと今衝撃的だもんで市長から、逆にね、役所の人に対して、賛成派を集めろと。
だけど、良識のある職員さんは、断った。
こういうことでいいんだよね

局長：そういった事実を今回の確認作業の中で確認したところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：観光文化交流局さんは、ね真面目にやっていると、ねそうすっと、ごめんなさい、市長と特別秘書が、この木造復元を邪魔しとる。

話だ。

そもそも市長はね、市民の木造復元は市民の声だ。

みんなが作ってくれていうとるけど、こんなやらせみたいなことをやったら、その市長の言っとるよ投げ所も、これ消えちゃう話だ。

エレベーターの話じゃなくて、木造復元まで戻らなきゃいけない。

話になっていくんじゃないのかな。

ね多分これ今の衝撃的な発言、市長さんに聞いたらまた記憶がないとか、言うに決まっとるんだけど、言葉も出んし、それならね。

じゃ、この今回問題になった。

田中特別秘書と、この名古屋城との関係性どういう仕事をしているのか。

教えていただきたいと思います。

所長：田中特別秘書の名古屋城木造天守に関する関聖のお尋ねです。

私が着任する以前、通算6年ほどですね、こ田中特別秘書が就任されてからたっている認識しておりますが、率直に申し上げますと、名古屋城の木造復元事業に関して具体的に何かなんていうか、建設的な提案があったというようなことは、特に認識しておらずですね、一般論としての市長の言動などについて、こんなことがあったよというようなことは、情報提供としては一部あったように、意識しておりますけれども、その程度に留まっておるかなということでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：田中特別秘書からは、提案もなければ、情報提供、情報提供ということは、別に市長室の庶務係長で、いいレベルだわなで、こないだの、尺取虫にしろ、今回のこの大問題にしろ、邪魔しとるだけだがね。

僕が上司なら迷惑だとね迷惑だと、何とも思わん。

ごめんね。あんたら。

名古屋弁がきついもんで

所長：迷惑かどうかということでございます率直に申し上げます結果的には非常に役に立っているということが、非常に言いづらい。

ので結果的には、そのようなご指摘のような状態になっていると言わざるを得ないというふうに考えております。

浅井正仁(自民・中川区)：役に立っている状態ではないことは、はっきり言っていないことだよ。

これ、今後の名古屋城復元を進めるにあたって、市長さんは、定例記者会見で中間報告が出たら、市民説明会やるって言ってたわな、この間の本会議で、佐治局長は今日は、きっぱりと、まだやる段階じゃないって答えた。

仮にね、また市長が、やれと言った。

やらざるをえなくなるかもしれない。

そんなときに、田中特別秘書が、ね多分説明会僕も特別秘書と会ったことがあるどこの会場か忘れたけど。

今回のこの件があって、市民説明会に田中特別秘書が来たときに、みんなどう思うんだろう。真面目な説明会があるけど皆な、またやらせだと思わん。

名古屋城に関係している事業にはっきり言って、携わっていると市民の人は、ずっと同じことを思う。

通常でいくと、ねその業務を外したりってするのが、普通の民間の会社だったら当たり前だよ。

それが信用に繋がるでしょ。

その辺のことをどう思っていますか。

所長：はい仮に今後市民に対する説明の会がなされた場合、田中特別秘書がもし参加されたら、どういう影響を与えるかということと、率直に申し上げますと、今後報道等でそういったところがですね広く市民に知られるところになれば、さらにですね、そういう懸念が少なからず市民の方にもやっぱり生まれるのかなと。

言ってみれば委員ご指摘の通りですね、非常に今回の事件が木造天守復元事業に与えた不信感というものです、大きな一因をまだ継続してしまうというようなことも、可能性としてはあろうと考えております。

浅井正仁(自民・中川区)：僕は今までね、文化財を触る事業は、積み上げだとずっと言ってき今回の事件だわな。

ね。

かつては、副市長さん大物政治使えば、使ったからなんで駄目なんですか。

そういうことも私と横井先生の前で言われた。

なんか間違っとるんじゃないのかな。

政治家、使えばいい、市民を騙せばいい、違うでしょ。

文化財行政を文化財を触るということは、積み上げて、積み上げてやっていくでしょう。

こないだ中間報告にも書いてあったよね、あの市民説明会を、討論会か。

2年でやるところね。

短縮したって。

今までの観文のあり方がね、1回精査するなり、総点検した方がいい、いいと思うよ。

そうしないと前に進めないと思う。

でね。

それは市長であったり、副市長であったり、特別秘書は、市長の伝書鳩みたいなもんだもんで、報告しかないもんでそういったところも踏まえて、理不尽だとか、職務にね、反するようなことがあったのかどうか。

まず総点検をしなきゃ、これ始まらないと思うんだけど、いかがな。

局長：今回の事案の発生を受けてですね、過去の市民討論会につきましては、当時の担当者であるとか、委託業者にですね、そういった疑念な疑念を抱いているような事実があったかどうか確認をしております、そういった事実はなかったということを確認しているところでございます。

しかしながら、市民がこういった疑念を抱いて、それを払拭するためには、何らかのやはり精査とかそういったことが必要じゃないかな、というふうに考えているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：いや、考えとるじゃなくて、やるべきでしょう。

だって、市民討論会言わせてもらうなら、これだって、やらせじゃないかなと思うよう。

いくらね無作為抽出かなんか知らんけどねでもこの議員の中で、ひよっとしたらと思ってる人、今回の件で出てきたんじゃないのかな。

もう何にも信用できんのだわ。

過去、全てにおいて。

じゃ今回の市民討論会、無作為。

ねスポーツ市民が住民票で、ランダムで選んだと。

その名簿をもらって、あなたたちね発送すると。

でも、名前変えられるんじゃないかと思ったら変えられるんじゃないのかなと思っちゃう。

だからみんなそう思っちゃうんですよ。

そのためにも、総点検をして、ね。

どういったことが、あったのか。

今の中間報告やってんだけど、中間報告では、あくまでも人権についての背景だとか、そこまでしかやれないんですよそれは今日の朝、スポーツに確認しました。

そうすると、見えないとこって出ちゃうんです。

だから総点検をしたらいいと言ってるんだけど、どうですか

局長：浅井委員から、総点検にする必然性につきましてご指摘がございました。こういった点検の仕方があるか、局内でしっかり検討した上で進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

浅井正仁(自民・中川区)：総点検が終わらな、その先のことなんか聞けないし、どうしたらね、あなたたちは、市民の皆さんにね信頼を得れるのかよく考えていただきたい。

奇しくも今の上下水道局上下水道局ね愛知次長がいいこと言われたね。

部下に対してお客様が、部下が悩んだときにお客様が、より良くなるように考えて行動しろ本来ならば市民を裏切るような行為をしない、市民のためになるそういったところから、まずは考えなきゃいけないということを述べさせてとりあえず終わります。

さわだ晃一(公明・西区)：

今の浅井委員の質疑にちょっと補足するようなイメージで、私もやり取りをさせていただきたいと思います。

今回の総務環境委員会の減税所属議員の発言による市民説明会ですね、市民説明会の田中特別秘書の私は不適切な関わりというふうにあります。

桜を動員することを容認するような、ちょっとその前段のやり取りがわからないので、どういう経緯で減税所属議員が Facebook の Messenger に写真を送ったのか、依頼したのはどっちなのか。

ということはありませんので、それは本人いないので、ここでやり取りする話じゃないと思うんですけど、そういうことがあったことによって、これすごく影響が大きくて皆さんは今まで大変誠実に職務に専念されてきたことは私もその通りだと思うので、皆さんがどうということじゃないんですけど、結果的にこのこれまで積み重ねてきた、まず市民説明会の正当性が今揺らいでると、既に昨年6月の市民討論会はもうぐちゃぐちゃですよ。

検証委員会まで開かれるありさま。

それで、これまで開かれてきた市民説明会の正当性が揺らぐ事実を整理すると、今回総務環境委員会で減税所属議員の発言があったのは、令和元年だな。

令和元年の12月3日夜、7時から中川文化小劇場で46名の参加者を持って行われた名古屋城天守閣木造復元市民向け説明会、この場での発言というふうに私は認識しておりますけれど、それで間違いないでしょうか。

江場主幹：議員ご指摘の通りでございます。

さわだ晃一(公明・西区)：皆さんはこの場でのやり取りを、やっぱり全部インターネットに報告書という形でね、市民の皆さんがどういう質問をされたのか、そして当時の所長さんがどうどういう話をされて市長がね挨拶もされえていらっしゃるんです。これまで、令和元年の11月から令和5年の1月まで計15回、延べ1000人以上の市民の参加者、があって、その私全部報告書を読みました。

アンケートも全部読みました。

その上で、今日ちょっと委員会に臨まさせていただいておるんですけども、確かにね、今回の令和2年の12月3日ごめんなさい。令和元年の12月3日の、つまりサクラを入れ込んだとされている。

説明会の中で3名の桜だよ。

3名の顔写真送って3名とも指名できればいいのですが、しっかり司会に伝えときますって、田中特別秘書は、このSNSのメッセージでのやり取りがしてると、こういう指摘を総務環境委員会の中であったんですけど、確かにね、発言された方のうち2名がね、明らかに木造に賛成。

中には、当該所属の減税所属議員が加入してる、理事かなんかやられたのかな、ちょっとわからないけど市民団体のところから来た。

いうふうに所属を上げていってる方がお一人、それからもう一人は減税の政策に賛同するかのような発言も交えて、木造に賛成というふうに発言をした方が、2名合計でいらっしゃるんです。

3名のうち2名は当たってるじゃないかと疑われても仕方のない状況が、私がずっと全部市民討論会説明会を読んだ中では出てきているということは、これは私のあくまでも推論ですけども、減税所属議員がこの3名ですと連れ出した。

そして司会にも伝えたっていうことが、司会に伝えたのは田中特別秘書だ。

特別秘書が、間違いなく、伝えときますからって伝えない場合もあるんだけど、これ伝わってたと。

いうふうに裏付けられたというふうに思ってしまう人もいるんじゃないかと、この可能性は否定できないと思うんですけども、いかがでしょうか。

当局の認識。

江場主幹：当日の運営は失礼いたしました。当時の市民説明会におきまして司会者は運営委託補助の中です。

そちらの業者にの確認をいたしまして、司会に対してそのような

さわだ晃一(公明・西区)：そうずっと、たまたま偶然なんだね。

すごい偶然があるもんだね。いいです。

それはまた別の場所でやっていただければいいと思うんですけども、その働きかけがなかったっていうことを証明できる事例はないよね、なかった事って証明できないもんね。

江場主幹：はい、議員ご指摘の通りでございます。

さわだ晃一(公明・西区)：わかりました。

あったかなかったかっていうことで、その言った言わないっていう話もいくらでもあって、特に市長さんなんか都合のいいことはすぐ忘れちゃうからね。

自分の都合の悪いことをすぐ忘れるんじゃないですか。その辺の審議についてはまたってことは、田中特別秘書はわかりました、うまく司会者に伝えときますって言って伝えてなかったっていう別の側面の話もこれで出てきたってことだね。

それは減税さんの中でやり取りしてよ。

こっちは関係ないから。

その程度の話ではいい加減な話、いい加減だね、いい加減なことてこんな混乱させちゃ駄目だよ、本当にこれ会派の責任だよ。

後で言うけど、もう一つ。このことでグラグラ揺らいでるっていうことは桜を入れたということで総務環境委員会の中で政治家が自分の支持する人、自分の恣意に人を連れていくっていうことについては、私は特段何も問題ないと思ひ、これは総務環境委員会の中でもやり取りされてた通りだけど、これを特別秘書に働きかけるってのは問題だなど。

いう問題意識はありますよ。働きかけるのか、どっちが働きかけてきたのかもわかりませんよ、これどっかではっきりさせた方がいいと思うけど。

それにお互い同意をしてるっていうことは、大問題だと思います。

しかも、写真まで添付して。

それは大問題、これはうちの出た話じゃないんでちょっと他の委員会でおまかせするとして。もう一つ、そうなると、この全15回の市民説明会がグラグラと揺れていて、先ほど浅井委員の質疑のやり取りの中で衝撃の発言ですよ。

これ当日の当日っていうのは、昨年令和5年6月に行われたバリアフリーに関する市民討論会、名古屋城のここに市長から、こともあろうに、賛成派説明会説明会の方に、ごめんなさいね。話戻します。説明会ですね一連の全15回あった説明会の中に賛成派を入れろというそんな発言があったということは、もう、まさにそれを補完して、この田中秘書のやり取りが、これ市長のこれ市長の指示だったんじゃないのって疑う人も出てくるような話だったですよ、今の話は。

指示はないってどうもおっしゃってるようなんで、特別秘書の所管はうちじゃないから、このことについてはやれないけど、そういうことが疑われる事例。もうちょっとこの田中特別秘書の感じについては、私が持ってる結論言っちゃうけど、先ほど冒頭、局長は今回の田中特別秘書の行動を今回の今回明らかになった特別秘書の行為っていうのは、公平公平性公正性に欠けると。

こういうことをはっきりおっしゃった。

それで、それに付随して、冒頭の局長の発言に、あの付随して教えていただきたいんですけど今後、こういう方がね、特別秘書の職務として、連絡調整機能をね、担えると思いますか。

もしくはこれまで通り担える可能性は、私は著しく低くなったと思うんですけども。

あの発言しやすい文言で結構ですので、今後の業務に支障が出るか否か。

連絡調整の役割を果たせる十分に十分に職責を果たせる環境なのかどうか、現時点でこれをお答えください

所長：先ほど浅井委員にも同様のお話でお答えをしましたが、この段階においてですね、田中特別秘書の発言なり、役割というのは、木造天守復元事業現時点では極めて不必要というか一種の有害性を持ってるかというふうには考えております。

さわだ晃一(公明・西区)：それ、ありがとうございます。

室長もなかなか大変なお立場の中で、踏み込んでいただいて、恐縮です。これは過去の総務環境委員会で、これもまたちょっと所管外になっちゃうんで院長ごめんね止め止めてくださいねここはもうやめる、やめますけど。

この特別秘書に関する付帯決議の中でもはっきりと議会側として意思を示してるんです。特別秘書については、議会が認めた国、他地方自治体議会関係機関との連絡調整などの職責を十分に果たし、これ果たせないよね。かつ、地方公務員として法令を遵守し、公平公正に職務を全うできる人材を市長の責任において確保し任命すること。これが議会が付した。

付帯決議です。これ多分総務環境でやられると思うけど、これ他の委員会なので答弁要りません。参考までに述べてるだけなんですけど、まず大きな柱の一つ、関係機関との連絡調整がもうできない、今の答弁ではっきりしました。

それから公平公正に職務を全うできる人材かどうか。

これは冒頭の観光文化交流局長の発言ではっきりしました。

公平公正じゃないと、今回の行動は明らかになった行動からいうことからすると、議会が求めた付帯決議にこの特別秘書制度はもう早くも破綻をしたというふうになります。

ということだけ、あの答弁はいりませんが申し述べておきたい。

元々、私、平成26年度制度ができたときに総務環境委員会に所属をしております、この特別秘書で最も問題になったのは政務と公務をどういうふうにバランスをとって進めていくのか、他都市では認められている政務の部分をあえて名古屋市は政務は一切やらせない。ということに限定をして、議会としては認めた経緯があります。

なので多分、総務環境委員会では一貫して公務です、と言わざるを得ない。公務とするならばこの付帯決議に申し上げた公平性公正性他局の連携これいずれもできない。

ということが、やり取りではっきりしたということ、ちょっとここで申し述べておきたいと思います。効果ないけどね総務環境委員会所管の委員会じゃないから。それでそのことからそのことからっていうのは市民説明会の正当性が大いに揺らいでいると。

この全15回1000人以上を集めて、市長を初め、各局の皆さんがずらっと並んで、いくらのお金もかけてやった市民説明会の正当性が今大きく揺らいでます。

そのことは結局どういうことに影響してくるかっていうと、今年の5月の6月の市民討論会にだって、桜入れたんじゃないのって。

今浅井委員おっしゃった通り、そうやって疑われちゃうよね。

だから、全てこれまで、皆さんが誠実に行ってきた職務のが、特別秘書、並びに減税所属議員のやり取りの中で音を立てて崩れましたよ、今日。

私は先ほど全部読んだっていうので、ちょっとここで一つお聞きをしたいと思います。実は、令和6年昨年行われたバリアフリーの討論会ね、討論会に出られて、いわゆる差別発言をされた方が、私ずっと全部見るとね。

令和5年令和5年の6月にごめんなさい、令和5年の1月21日令和5年1月21日に今回のバリアフリー討論会からさかのぼること5ヶ月前に、お昼の1時半から中区の古城ホールで217名の参加者を得て、市民説明会これ最後の市民説明会を昨年のは1月21日に行われ、れてるんですね。

その中で、全部の参加者の発言をつぶさに読ませていただくと、ある市民の方が、バリアフリーに、この人はエレベーター設置については、おそらく反対の立場でおっしゃってるんですけど、つまり名古屋城に来る障害者の方の割合はどれぐらいなんだという割合を尋ねて、当局は1%というか、当時の本当は0.1だったらしいんだけど、1%というふうに答えて、1%ですかって言ってる。

この市民の方が何を他に言ってるかっていうと、エレベーターつけたらメンテナンス費用いくらだと思いますかと、月々いくらかかるんですかっていう発言をされてる。

これと全く同じ発言をした方が、実はこの今回の6月、差別発言があった討論会に参加した方ね、男性の方だけど声を聞くとわからないけど、その方がね、同じ発言してるんですよ。全く同じ発言。

全くとは言わないけど、趣旨としてはそっくり。

いったいいくらお金かかると思ってるんですかってエレベーターなんかつけてってねアンケートにも同じこと書いてある。

当日発言もし、アンケートでも書き、これを1月と6月、その方はやってるんですよ。

これって、ぱっと聞くと、この今回の暴露だわね。

減税日本さんからの暴露がなかったら、私こんなこと全く思ってなかった。

当局者の説明もそうだったよね、無作為抽出5000人のうちからアンケートを配る。でアンケートに答えてくれて、討論会に参加したいって丸が付いて帰ってきた人の中で、抽選でしかも抽選で選んだ方、これが100名に満たなかったわけそれで当日参加する50数名の方がその中に1月にも同じ発言してた人が、私入った可能性って、つまり同一人物この2人が令和5年1月の市民説明会に参加をして、エレベーター費用のメンテナンスの話を云々と発言されてた方。

その方、当局は多分名前わかると思うんですよ。

プラス、昨年度どうバリアフリーのあの発言討論会の中で、いわゆる差別発言をした方この方がわかりません。発言の内容とか声とか、それからお名前だね名字ぐらいわかるでしょう。実際にね、マイクでね、報告書に付してあるんだけど、どどこ区から来た〇〇ですって名前言ってる。

私は知らないよ、出てないし、だけど議事録を起こしてるから当局は名前わかってるはずだ。この人が、全く別人ですというふうに可能性って、私否定できないと思うんだけど同一人物である可能性ぐらいはね、あるんじゃないかというふうに思いますけれども、いかがですか。

江場主幹：失礼いたします。市民説明会へご出席いただいた方についてお尋ねをいただきました。

市民説明会におきまして先着順で入場いただいております特に個人情報等の招集は行っておりませんので議員ご指摘の通り当日ご発言なされた際にですね名乗られたお名前とうちぐらいしかちょっと確認する術はございません。

一方でご指摘の通りですね、討論会の方で発言された内容の同一性というのはございますので、ご指摘の通りの可能性については残っていると思います。

さわだ晃一(公明・西区)：可能性は残るってことは、少なくとも苗字が同じだったんだね。ということ答弁求めませんが、そういう意味ですよ。

こんな偶然あるの。

偶然なんだろうね。

っていうふうにだから偶然かもしれないけど、私は何が言いたいかっていうとこの今回の田中特別秘書と減税所属議員のメールのやり取りがあったことで、真面目にきちんと公平公正にやってきた当局の努力が踏みにじられて、まず一つは歌われちゃうから、だって公開資料で私喋ってんの。

何も、何か裏出てまして云々でやってないよ全部オープンになってる資料から読み解くと、こういうふうに読めるの。

大いなる疑義を与えたね。

というふうに思うので、私はそういう意味からも先ほど浅井委員がおっしゃった、もう一回総点検したらどうだっていうのに賛成です。

もうこの疑念を払拭しない限り、もう一回ちょっと角度を聞いて聞きますね。

これまでの15回開催をされた市民向け説明会の趣旨、これは市民に対して、木造復元の理解を深めていただくものこういうふうに私理解しておりますけども、そういう理解でいいですか。

江場主幹：議員ご指摘の通りでございます。

さわだ晃一(公明・西区)：一方、今年の6月に行われた名古屋城バリアフリーに関する市民討論会については、ここでその前の議会の答弁からの流れからすると、ここで市民意見を聞いて最終的にそれを市長が判断するってということなので、全然違うよね格付けが、重要度が、この認識は合ってますか。

所長：委員おっしゃる通りでございます。

沢田委員：つまり私が言いたいのはその重要な大変重要な市民討論会の中で、まず差別発言が起きたっていうのに加えて、さらにそこに桜を入れ込んだんじゃないか疑惑っていうのを持たれてるってことです。もっと持たれても致し方ない状況に今なっちゃったよ、この暴露のおかげで、前に進めませんこんな状態では、というふうに思いますので、

浅井正仁(自民・中川区)：一言だけ。多分ネットで市長も副市長も聞いておるとおもうけど、魔女狩りは止めていただきたいな。ね。

今回のこの勇気ある発言ね。職員の勇気ある発言に、魔女狩りみたいなことをやったら、ね。

要は犯人捜しだよ、誰が言ったそういうことはやめていただきたいというのを伝えておきます。

もしあるようなら、全ての職員さんに対して、議会に言ってきていただきたいと思います。

沢田委員：ちょっと委員間討論をやらしていただきたいんですけど。

正副委員長さんいかがですか

委員長：ただいま沢田委員より、委員間討議のご要望がございましたが、他の委員から何かご意見は。

ございますか。

特にないようでございますので、これより委員間討議をお許しいたします。

さわだ晃一(公明・西区)：減税の当時いなかった方もいるので、いなかったにお聞きをした方がいいと思うんですけど。

こうした田中特別秘書と減税日本さんの所属議員のやり取り。

ってというのは、これ聞くと、本当にこの中川区だけの問題なのかなって思っちゃうんです。

その他にもあったんじゃないのって疑念も持たれてるよ。

それそういう意味でもすごく責任重大なんですけど全てこうした部分に於いて、減税日本産というのは自分の都合のいいように桜を、しかも市長特別秘書と結託をして、行ってるんじゃないかっていう疑惑は、ぱっと総務環境委員会のやり取りを聞いてて思うんだけど。

そういうことを、あるんですかないんですか。

田山宏之(減税・北区)まず、市民の不信感を招いたことが、非常に遺憾であると思いますし、そういったことは私としては一切ありません。

ただ、あとそういう話を聞いたこともありません。

さわだ晃一(公明・西区)：言った言わんでねあんまり実りがないので、これは突っ込んでいくつもりはないんですけど、そういうことをやってない、言ってないって言っても信用してもらえない環境ですからね。

これ言っときますけど、本当にそうなんですかってみんな思ってますよ。

もう一点、このやり取りをいや、このやり取りってのは田中特別秘書と、現状所属議員中川区選出の減税所属議員が、突然突如総務環境委員会でこういう話を出してきたってということについて、何か事前に相談とか会派として意思決定したとか、情報共有したとか、そういうことってありますか。

田山宏之(減税・北区)一切ございません。

さわだ晃一(公明・西区)：今会派の受け止めはどうなんですか。こんだけ、つまりこれは完全に議会に関わることですよ今委員会もこういうことで紛糾してるし、実際は金曜日にやるところが止まっちゃったんですから。

この議会に及ぼした影響の重さについて、どのように受け止めてらっしゃいますか。

田山さんは元々副議長も経験されてるし、会派の要職も務めておられるし、今は自分は執行部じゃないとおっしゃるかもしれないけれども、政治団体である減税日本の要職も務めてこられた。

立場的にも組織も一番上だ。

其の田山さんが、いや私は関係ありませんとは言えないですよ。

こうした混乱を招いたことについての責任をどう受け止めてらっしゃるんですか。

田山宏之(減税・北区) まず田中秘書の件については、市長も行き過ぎたことがあったとも嚴重注意をしているという。

ことでありますので、当然、田中秘書の行動で、市民に対する不信感を招いてしまったこと。

また、減税議員。

もうそこに関与していたということは、市民の信頼を揺るがすような事態だと思う。

市民の信頼を取り戻すことが一番だと。

今は考えています。

さわだ晃一(公明・西区)：あの市民の信頼を取ります。これ市長さんもよく言うんだけど、話はわかってくれるっていうんですけど、そう簡単じゃないですよ。

これまで、私は皆さんが信頼を取り戻すのに足る合理的な行動をとられたことは見たことがない。

結果としてどうかってのは私が判断できないけど、なるほどそこまでやっていけば、これまでいろいろありましたから、これだったら、信頼回復できるなというふうにストンと納得できる行動をとられたことは、私の記憶ではただの一度もありません。

これは非常に重く受け止めて、重く受け止める以上の問題ですよ。本来はだってさ、市長が進めようとしたこんなことしたらだよ、こんなことをしたらっていうか、そもそも事実としてこういうことがあった。

これを公表したということについては、それは否定するものではないですけども、なぜこのタイミングで、しかも、市長が一番一番かどうかわかりません。

外形上一番というふうに進めてきたこの木造天守復元と丸じゃん。

こんなことやったらなぜこのタイミングでこんなことをしちゃったのか、私は全く理解できないんですけど。

これは独断でやっちゃったの。

何の相談もなかった。

誰も知らなかったの。

田山宏之(減税・北区) はいそうです。

さわだ晃一(公明・西区)：これ、普通だったら反党行為だね、普通に考えるそもそもこういう行動してるってことがおかしいんだけど、だから自分1人で先ほどように政治家として連れて行くのは自由ですよ、私もそう思う。

いっぱい連れて行こうと思ってそこで意見が出ればお互いなんだけど、それをあえてさくらという言い方をして、かつ、結果的に何か司会者に伝わってなかったみたいだけど司会者に伝えますというやり取りをして、終わった後どうぞ控え室まで来てくださいみたいいうことは、市長が否定するかどうかわかりません先ほど浅井委員のやり取りで市長ですらこの市民説明会に賛成派を、もっといろいろ言って指示をして、良識ある職員がそれだと私はねぜひこのこともね、あの、振り返って最終この検証委員会は、元々川上である文化庁は木造でしか再建を認めないという本会議での答弁の段階までさかのぼって、終報告をしてみると言うるので、この要素も当然新たに最終報告には加わりますからね。

ぜひこれは他の委員会なのであれですけど、スポーツ市民局に観光文化交流局の皆さんから伝えていただきたいというふうに思います。

という、大変今深刻な状況にあるっていうことについて、私は大いに会派として会派のガバナンスの問題として、大いに問題があると思います。

これを理事会で扱っていただくかどうか理事会で扱っていただいても、しかるべき大変重い問題だと思いますので、そういうふうにね、深刻に受け止めていただきたいというふうに責任感じてらっしゃいますよね。

田山さんちょっと発言してしっかり田山宏之(減税・北区)会派としては非常に責任を感じているところであります。

浅井正仁(自民・中川区)：じゃちょっとね、今沢田委員が言ったね。

市長から田中秘書に対して嚴重注意してる。

ここまではいい。

だけど、今日の本会議で、市長も同じことをやっちゃった。

結果、結果的には職員が止めてくれたから、桜は入らなかった。

だけど、職員に対して、やれと言っちゃった今日、衝撃的な話を聞いて、あなたたちの党首ね、政務なのかなのか公務なのかな政治家なのかわからんけども、人間としてどうなんだろうお2人にお聞きしたい。

大谷智弘(減税・緑区) 総務環境委員会の資料の中にもありますけど多くの市民の皆様に来ていただくようということは市長常に言われて、いうことは我々減税日本の議員も、ますが、市長がどのような言い方を職員の方にされて、職員の方々がどのようにそれをお断りというそれはちょっとというようなお話をされたかというところをしっかりと双方と確認をもう一度するべきだとは思いますが、そういったことがあった場合は、またしっかりとそれについても、検証はしていかないといけないと思います。

浅井正仁(自民・中川区)：全くわからんな。

な今日委員会でね、この職員が、虚偽をするわけでもなし。

虚偽をして何のメリットがあるんだろう現実に今委員会でね、ね私が市長は賛成派を集めるという指示があったのかっていう質問に対して、ね。

当局の人は、過去の担当職員にも対して確認したところ、市民説会説明会に関して、市長からそのような発言があったとのことでした。

はっきり言ってんだよ。

それをあなたたちまで言った言わんの話にするわけ。

職員さんが、今日、嘘言ったとでも言うの。

田山宏之(減税・北区) 発言を私聞いて、私も驚いてますから。

ちゃんとそういったことが今後ないように、襟を正していかなければいけないと思います。

浅井正仁(自民・中川区)：ないように、襟を正すって。ね。

これもやっちゃったことだよ。

ね、名古屋市のトップが、地域委員会もみんなそうじゃねのかってみんな思っちゃうんだよ。

自分のやりたいようにねことを進むためには、何をやってもいいのかって思っちゃうんだよ

ね、それがあなたとこの党首ですよあなたたち公約で、完全木造復元が公約だよ。

完全木造復元って、何。

完全に何かできるはずないでしょ。

煽って煽って市民をね、そうやってやる。

賛成派がいないで寂しいで、人を呼んでくる。

ね、2人に言いたい。

あなたたちの党首、田山さん、あなたも私達と同期で良い4期目だよ。

市長にも、はっきりと物を言える立場だよ田山さん市長に何て言うの。

これからは襟を正してくださいっていうの。

過去についてはいいの。

田山宏之(減税・北区)：ことあるごとに市長にははっきりと物事を伝えてきたと思いますし、今後もこの委員会で、あったことを市長にしっかり伝え、しっかりと襟を正すように、伝える。

ということが私使命だと思います。

浅井正仁(自民・中川区)：ちょっと変えるね話を今回田中秘書のお話が出た。

田中秘書のこの名古屋城ね。当初、特別秘書は、なんだった。

役人ではなかなか動かんもんで。

民間にピッて走れるようにな話もあったし、だけど今日の話を知ると、市長の伝令係だ。

それ以上のものでもそれ以下のものでもない。

ね中において、なんかこの名古屋城に関して、ねあなたたちに相談だとか、そういったことであるの。

田山宏之（減税・北区）ほとんどないと思います。

浅井正仁(自民・中川区)：今日の話聞いて特別秘書は、どうしたらいいと思う。

さっきも言ったけど、この先、市民討論会やにしても、ね田中秘書がおったら多分田山さんも疑っちゃうでしょ。

またやっとなじゃねのかなって勘ぐりをね、どうなんだろう委員長：いかがですか。田山委員。

田山宏之（減税・北区）行き過ぎた行動をしっかりと反省し、市の職員、市民に、されるように立て直してもらいたいと思います。

浅井正仁(自民・中川区)：あなたもうね民間企業、長かったからね。

信用失墜したら、ほぼどうなるんです。

自分の顧客にたいして、

田山宏之（減税・北区）：民間私の経験で言うと、信用失墜した場合は必至で、こちらの信用を取り戻すべく必死で行動してきたつもりです。

浅井正仁(自民・中川区)：会社としてどうされていきましたか。

田山宏之（減税・北区）：信用の失墜の度合いによって、様々な懲罰はあると思います。

浅井正仁(自民・中川区)：ごめん、大島委員に聞くけど、僕もサラリーマンやっとなけど、

ね、大島さん委員も、やっとなけど、ね、自分の顧客、名古屋市でいうと、市民だ。

これははっきり言って信用失墜だよ、ね、思いませんか。

大島ひでひろ（維新・名東区）：そのように思います。

浅井正仁(自民・中川区)：浅井正仁(自民・中川区)：そうすると、これ会社として、通常でいくと、異動だわね。

異動だとかその人に違う地域に飛ばしたり。

そういうふうだと僕は会社は思っていましたけど。

大島さん、どう思い思います。

大島ひでひろ（維新・名東区）：その信用失墜、行った行為の程度によってということにはなるかと。

事が大きい場合に、当然その場にとどませ続けるというよりはまずその別の方で対応できるね、あの当事者の方に関しては、別の職務に当たっていただくという対応ってのは、

浅井正仁(自民・中川区)：そうだよね僕もそう思う。

その当事者はね、もう駄目なんだ。

当事者がうろちょろしたら、誰も進まんと思う。

それ普通だと思うんだけどさいいと思います。沢田委員どう思う。

さわだ晃一(公明・西区)：二つあって、一つはその個人の問題ね、個人として適性があるのかないのか適性に応じて移動していただくと、もしくは辞職をしていただくと、もしくは、どうなんだろうね。

其の他、金銭的なのか物理的なのか、保証するのか。

一般論ですよ今言っているのは。

っていう選択肢もあるし、もう一点の論点としては、人事制度そのものに、問題があったんじゃないかっていう任命責任の問題。

この2点が私はあるんじゃないかというふうに思います。

浅井正仁(自民・中川区)：ね、ことの重大性というのが出たんだけど、今回のさくらどれぐらいの重大性があるんだろう、減税の方に。

委員長：減税の方、いかがですか。

田山宏之（減税・北区）総務、環境委員会の議論を聞いていてまだ最終的にどこまでっていう確定した事実が判明してないということで、事実がしっかりとたときに、重さがを判断できるとは思います。

浅井正仁(自民・中川区)：いや判明してるじゃん、メールで。

写真まで送っとんでしょう。事実。

実質1人の人が喋ったんでしょう。

これ以上の事実って何があるんだろう

田山宏之（減税・北区）当委員会でも、言及がありましたが、田中特別秘書が司会者にしっかりとこの3人のことを伝えているという事実はなかったということですので、事実を持って、このメールのやり取りで、3人のさくらと言われている人のことをし、司会者に伝えるという趣旨でのメールとは判別できないと思います。

浅井正仁(自民・中川区): 伝えてなかったらいいんだろう伝えてなかったらいいのかあなたたちは、ね。
いいのか。

田山宏之(減税・北区) 市民の不信感を招いたということでは、問題がある行為であった

浅井正仁(自民・中川区): それが一番大きいんじゃないの。
それが一番大きい話じゃないの市民の信頼を損ねたっていうのが一番大きな話じゃない。
違うかな。
減税さんも、市民の信頼よりも、ね。
伝わらなかったらいいというのでこれ以上お話しても何ともならんもん。
とりあえず

さわだ晃一(公明・西区): もちよっと田中特別秘書というか、市長特別秘書制度のふうにも、言及行ったんですけどこの名古屋城の問題から起因してということなので、ちょっとここでやらせていただきたいと思うんですけど、今、先ほど来、局長そして総合事務所長のご答弁もあった通り、まず連絡調整はできない。
公平公正な職務の遂行もできない。
これ冒頭も冒頭というか私の経験上総務環境委員会で実際にこの特別諸制度を議論したときに、どこまでが政務でどこまで公務かの切り分けはすごく難しい中で、公務に限定をしたんだけれども、これまで私が13年間議員をやってきた中で、特にこの田中特別秘書になってから、前任の秘書さんもいろいろあったと思うんですけど、理事会の中でも、ある特定の会派のみだけの相談を受けている。
それは意図してなのかどうなのかは別としてね、結果的にある特定の会派だけの相談に乗っているという、そういう発言もやり取りが過去の理事会でもありました。
さらに今回もこれもそうだよね。特定のやり取りの中やっていたということにもなるし、かつ反面、いろんな委員会で例えば教育委員会のタブレットの話を知ると、結局何をやってたかっていうと情報共有だけなんですよ。
タブレット端末の配布のときには、今回の田中特別賞はIT関係詳しいから、ということで採用した理由の一つにもなっていたんだけど、これ余分な話ですからね本当じゃないよ。
にもかかわらず、結局教育委員会が答弁したのは、いや情報共有してただけです。
それ隣に座ってるだけで市長の何か積極的にリードしたとかそういうことも全くなかったっていうふうに委員会でやり取りした。
それともう1個、市長選のときに河村事務所に田中特別秘書出入りしてました。
これは政務と疑われても仕方がない。
それは公務だったらしいけどね、そこはそこのぜひは問いません先ほどの理事会の中でのぜひも問いませんそういう問題じゃない、外形上、政務と公務を立て分けるっていうことは非常に難しいということが今回の中ではっきりわかったこれは、これはてのは今回の桜の話は

特定の会派もしくは市長、市長の進めている政策に大きく不当に不適當な形でね、肩入れするっていうかそれを助長するような、ルール違反の話だ。

これは公務を大きく逸脱してるってのは、総務環境委員会ですいぶんやり取り多分今もされてると思うけどってことは、個人の問題ではなくて、やってみたけど、やっぱり公務と政務の立て分けをきちっとするなんて私は不可能だと思うってことは、この制度そのものに瑕疵がある。

というふうに私は思うんですけど。

今申し上げた通り、この制度に不備がある。制度に不備がないんだったら、個人の責任になるからね。

個人の責任じゃなくて、制度に不備があるっていうことなのか。

それは置いといて端的に聞きます。この市長特別秘書制度これ条例設置ですけど、これ私は不備があると思いますし、問題があるというふうに思ってますけど、田山さんいかがですか。

田山宏之（減税・北区）政務と公務の切り分け、非常に難しいと思います。

さわだ晃一（公明・西区）：重い。

田山宏之（減税・北区）：制度も見直すところは見直していかなければいけないとは思いますが

さわだ晃一（公明・西区）：つまり問題があると、こういう認識でいいですね。つまり問題がないとは思ってないと、こういうことでいいですね。

田山宏之（減税・北区）制度の問題と個人の問題様々な複雑に絡み合って、今回の事案が発生していると思います。

さわだ晃一（公明・西区）：当然個人の責任もあるし、制度の責任も両方ありますよと。こういうふうな理解でいいですね。

田山宏之（減税・北区）：その辺の割合は、よくわからないですけど、複雑に絡み合ってると思います。

さわだ晃一（公明・西区）：複雑に絡み合った結果責任、個人の責任も制度の責任も両方ありますねと私は聞いてるんです。端的に教えてください。

田山宏之（減税・北区）：当然、そういう趣旨で言っております。

さわだ晃一(公明・西区)：これで一旦私は終えたいんですけど、

委員長：他によろしいですか。

さわだ晃一(公明・西区)：これ最後に当局さんに、あえて答えいりませんので、私申し上げたいと思うんですけど。

そもそも、いろんな流れの中で木造天守閣っていうのが観光文化交流局の所管になったわけなんです。

そこで、私もこの市民説明会とか討論会の資料を全部つぶさに読ませていただきましたけれども、やっぱり市長は一貫して宝だ宝だと、つまり文化財的価値を非常に強調されてるんですね。

史実に忠実に復元復元することに意義がある。

だから1000年はもつ。ご自分の見立てだと50年経ち国宝になると、姫路城が国宝1号じゃないですよ、名古屋城ですよ。

1号は、ということはずっとの説明会でもほぼおっしゃってるんです。

ってことを。市民の皆さんからすると、市民の皆さんもねやっぱりそういうことをおっしゃるので、観光施設じゃないんだと。

名古屋城は、だからエレベーターつける必要じゃないんだと。

市長の話とか説明聞くと、忠実に復元できるそうじゃないかと。

ぜひ私は史実に忠実。史実に忠実に復元してほしいというふうに意見に結構ぐっと引っ張られるんですよ。

特にエレベーターっていうふうに市民の話が出てくるのは後半です。

令和5年に入ってから、それまでのアンケートとか発言は、バリアフリーに関してはバリアフリーとしか出てこないんだけど、この令和5年に入ってから特にエレベーターエレベーターで市民の人まで優出し、言い出すようになった。

あの、事前の冒頭の説明当時の、過去の元年から始まっている説明を見ると、エレベーターの設置はできないって、当局はあの事務総合事務所長の説明の段階で既に言ってるんすよ。

エレベーターの設置はできないけど、バリアフリーを検討します。公募しますっていうふうに言ってるんです。

だけど市長がそういう文化財的価値をガンガン強調するもんだから、そこでエレベーターに焦点がぐっとフォーカスされていて、令和5年に入った説明会ではエレベーターはつけるべきではないっていう言及が市民アンケートの中に顕著に表れ現れてきてる。

これ、僕が言ってる主張ですからね。

裏付けはそれなりにありますけど、そういうことからすると、これね文化財文化財で市長が言うんだったら、聞きませんよ。

これ教育委員会に書簡を移したらどうですか。

名古屋城だって観光施設じゃないんだから、観光文化交流局やる必要ないでしょう。

今だったら文化財保護と一緒に教育委員会に書簡を移して、頭を教育長にしたらどうですか。私はふっと思いますけど。

ちょっと簡単に意見だけ聞いてみようかな。

やめとくわ。

これはあまりにもちょっとあまりにも聞くのは酷だなというふうに思うので・

所長：非常に難しいご質問でございますので、私の答えが的確であるかどうか、非常に難しいところでございます。従来からですね木造天守に限らず名古屋城は、様々な側面を有する非常に多面的な施設であるというふうに理解しております。一般的には観光施設として非常に最近脚光が当たっております。

それ以前はですね、市民の憩いの場としての公園の位置づけも非常に大きなものであります。また昨今はですね、天守以外のですね、重要建造物、また歴史的にまだ現存するやぐらおよび門、あるいは様々なそういう文化財的な価値の高いいい以降であるとか、石垣であるとか、そういった様々な栄養素を有しております。

過去の経緯からですねそういう意味では、多面的な名古屋城の所管は旧経済局になっておりまして、そこから市民経済局、あるいは今日では観光文化交流局というふうな所管の変遷を経ております。いずれにしてもですね、様々な要素の中で、やはりこれまで私ども携わってきた経験上は、市民の方に名古屋城の持つ本質的価値をですね、総合的に理解をしていただく。

その中で、様々な楽しみ方が市民あるいは来訪者の方に、ご提供できるというのがですね、最も重要なことかというふうに考えております。したがって、文化財のみの部分に焦点を当てるというのは、私は正しくないというふうに理解をしております。そういった面からですね、木造天守復元事業につきましては従来から、私ども整備基本計画というですね、今持っておりますが、その中でも名古屋城の木造天守については、名古屋城が持つそういった様々な多面的な価値、我々は本質的価値と言っておりますけれども、そういった本質的価値をですね、訪れる来訪者の方にわかりやすく、お伝えし、かつての木造天守の様子、あるいはそこに中に入った時に、どのような形になるのかということですね。

実際に体感していただくと、というようなことを趣旨に木造復元事業を進めてきたところでございます。

したがって、結果として、何十年何百年たったときに、文化財になる可能性は当然あると思いますが、現在私どもの立ち位置としては、木造天守が文化財になるべく、事業を進めているということではありません。

私の個人的な見解でございますが、そういったことから私どもは引き続きそういった趣旨の中で、当局が担うことが適切ではないかと。

そういった意味で、文化財という面は当然ありますが、様々な本質的な価値の理解を促進するための、最もふさわしい木造天守復元事業が我々の目標とするところでございます。

以上でございます。

さわだ晃一(公明・西区)：私は今の市長が陣頭指揮を取る以上、この木造復元は絶対にうまくいかないってことを一貫して過去所属した、経済水道委員会で述べさせていただきました。完成時期の問題もそう、今回の木造復元の説明会から討論会に至るまでの間、彼がリーダーシップをとったがゆえに、かえって、全てのスケジュールがずれてるっていうことを申しあげました今様々ご答弁いただいて言うつもりもなかったんですけど、2月16日の総務環境委員会の中で、現時点でも市長はこれは名古屋の宝だと。

宝なんだということその辺を喋ってもらえばは、わかってもらえると思いますと。

そういうふうに言ってるんですね。

宝、宝を残そうという、もうこの一点張りなんです。

もうその時点で、いろいろ傷ついた人たちの信頼を得ることは、そういう意味でも私は無理だと思う。

そういう論点じゃないから。

そこが歩み寄らない限り、これは理解を得ることは到底不可能だというふうに思いますので、最終的に云々かんぬんという所管のことを申しあげましたけども、あえてアンチ程度として申しあげたわけで当時、私が所属していたときの局長は部下にこの素晴らしい事業をやらせたいんだと。

成し遂げたいんだということこの場で述べられて、非常に私は強く印象に残ってるので、これで2回か3回このことを申しあげてますが、皆さんが積み上げられてきたこれまでの事務的な積み上げ、知見等は本当に敬意を表しておりますので、そうした環境の中で、そうした環境というのは、市長がこの名古屋城に携わられない中で、進めていっていただきたいことを要望しておきます。

以上です。

委員長：他によろしいですか。

それでは、以上で委員間討議を終了いたします。

まず質疑の方ですが、他にないようであります。

以上で観光文化交流局関係の質疑を終了し、付議議案に対する全ての質疑を終了いたします。

本日の予定は以上であります。

明日は午後1時から付議議案に対する意思決定を行います。

これにて本日の委員会を散会いたしますお疲れ様でございました。